

2

運 転 す る 前 に

・各部の開閉

・ キー	2 - 2
・ ドア	2 - 3
・ スマートキーレスシステム	2 - 8
・ チャイルドブルーフ	2 - 16
・ パワーウインドゥ	2 - 17
・ 燃料補給口	2 - 20
・ ボンネット	2 - 21
・ リヤゲート	2 - 23

・シート

・ 正しい運転姿勢	2 - 25
・ フロントシート	2 - 27
・ リヤシート	2 - 31

・シートベルト

・ シートベルトの正しい着用	2 - 34
・ フロントシートベルト	2 - 37
・ リヤシートベルト	2 - 40
・ ISO-FIX固定バー および テザーアンカー	2 - 42

・SRSエアバッグシステム

・ SRSエアバッグシステム	2 - 45
・ SRSエアバッグが作動すると	2 - 52
・ 車両の整備作業やカー用品を装着するときは、次の事項をお守りください	2 - 53
・ SRSエアバッグ警告灯	2 - 60

・ミラーの調整

・ ルームミラー	2 - 61
・ ドアミラー	2 - 61

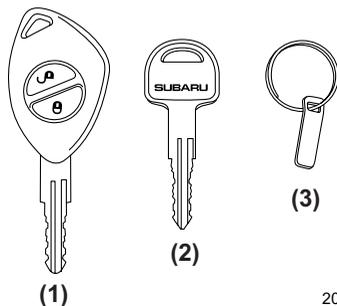
各部の開閉

キー

キーはドアの施錠、解錠、エンジンの始動、停止に使います。

<リモコンキー付車>

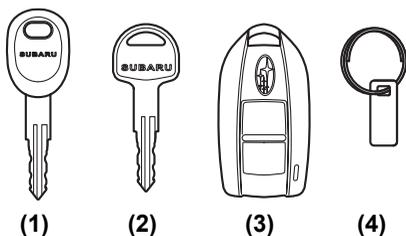
- (1) リモコンキー
- (2) スペアキー
- (3) キーナンバープレート



200021

<スマートキーレスシステム付車>

- (1) マスターキー
- (2) スペアキー
- (3) 携帯機
- (4) キーナンバープレート



200959

- リモコンキーまたは、携帯機を使うと、ドアやリヤゲートの施錠、解錠がボタンで操作できます。
- キーナンバーは盗難防止のため、キーナンバープレートに打刻してあります。

アドバイス

- キーナンバープレートは、合いかぎを作る際に必要となりますので、大切に保管してください。
- 盗難防止のため、キーナンバープレートは車内に置かないでください。
- 万一に備えてキーナンバーをメモしておいてください。
- キーを作るときは、スバル販売店にご相談ください。
- 万一、キーまたは携帯機を紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、直ちにスバル販売店にご相談ください。

ドア

■ ドアの開閉

ドアを開けるときは、ドアハンドルを引き上げ、手前に引きます。

ドアを閉めるときは、確実に閉め、半ドアになっていないことを確認してください。

注意

ドアを開閉するときには

- ドアを開けるときは周囲の安全を十分に確認してください。不用意に開けると後続車、自転車、オートバイなどにぶつかることがあります危険です。
- ドアは確実に閉めてください。半ドアでは開くことがあります危険です。
- ドアを閉めるときは、手や指などを挟まないようご注意ください。

アドバイス

- ドアハンドルを操作するときには、爪などを挟まないよう気をつけてください。
- 車から離れるときは、エンジンを止めドアを必ず施錠してください。また、ドアを施錠する前にキーを持っていることを確認してください。
- 施錠しても車内に貴重品などを置かないようにしてください。
- 以下の状態でドアを開けるとブザーが鳴ります。
 - ・ キーを差したままのとき
 - ・ ライトが点灯したままのとき
 ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。

☆3-3、3-5ページ参照

- 乗車中の施錠、解錠については次のような特徴がありますので選択し、ご使用ください。

施錠している場合

- ・ お子さまなどの同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
- ・ 停車時、車外からの不意の侵入者を防ぎます。
- ・ シートベルトの着用と併せ、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

解錠している場合

- ・ 万一の事故の場合、車外からの救援活動が受けやすくなります。

■電波式リモコンドアロックによる施錠・解錠

電波により、車から離れたところ（約1 m）から全ドア（リヤゲートを含む）の施錠・解錠ができます。

●解錠

車のまわりからリモコンキーの  ボタンを押すと全てのドア（リヤゲートを含む）が解錠します。このとき非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。



200022

●施錠

車のまわりからリモコンキーの  ボタンを押すと全てのドア（リヤゲートを含む）が施錠します。このとき非常点滅灯（ハザードランプ）が1回点滅します。



200023

アドバイス

車から離れるときは、ドアハンドルを引き、半ドアになっていないことを確認してください。

●非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅の解除

解錠時や施錠時に点滅する非常点滅灯を作動しないようにすることができます。スバル販売店でキャンセルすることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

☆1-2ページ参照

●自動施錠

解錠してから30秒以内にドアまたはリヤゲートを開けなかった場合は、自動的に施錠されます。

スバル販売店で自動施錠の秒数の設定を変えることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

☆1-2ページ参照

●ルームランプ連動

ルームランプスイッチが中間（ドア連動）位置にあるとき、リモコンキーにより解錠またはドアの開閉を行うとルームランプが約30秒間点灯し、徐々に消灯します。

点灯中以下の操作をするとルームランプは徐々に消灯します。

- リモコンキーの  ボタンを押して、ドアを施錠した場合
- エンジンスイッチにキーを差し込んだ場合

スバル販売店でルームランプ連動の条件の設定を変えることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

☆1-2、4-60ページ参照

🏠 アドバイス

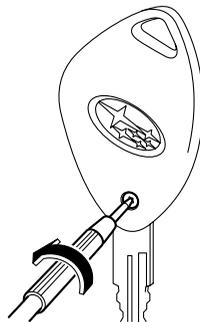
- リモコンキーは車の周囲約 1m 以内で作動しますが、周囲に強い電波やノイズがある場合（例：TV塔や発電所、放送局、無線機器使用場所など）は、作動距離が変わることがあります。
- 車を離れるときは、ドアハンドルを引いて施錠を確認してください。
- リモコンキーを紛失した場合、またはスペアリモコンキーが必要な場合はスバル販売店にご相談ください。
- リモコンキーを紛失した場合は盗難などを防ぐため、リモコンの再登録をお奨めします。
リモコンの再登録をするときはスバル販売店にご相談ください。
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき、ドアもしくはリヤゲートが開いているときまたは半ドアの場合、作動しません。
- リモコンキーには電子部品が組み込まれています。故障を防ぐため、次のことをお守りください。
 - ・ ダッシュボードの上など直射日光が当たり高温になる場所には絶対に放置しないでください。電池の損傷や回路故障の原因になります。
 - ・ 強い衝撃を与えないでください。
 - ・ 電池交換時以外は分解しないでください。電池交換の際は電池のショートおよび⊕、⊖の方向に注意してください。
 - ・ 水にぬらさないでください。水にぬれた場合はすみやかに拭き取り、充分に乾かしてください。

● リモコンキーの電池交換

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられますので早めに電池を交換してください。

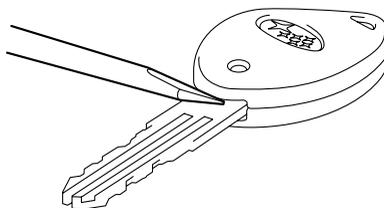
使用電池……ボタン電池CR1620

- ① スクリューを1本外します。



200024

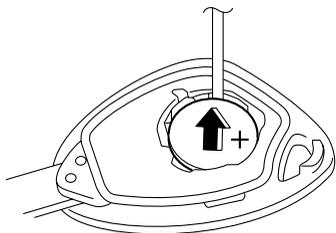
- ② 溝部にマイナスドライバーを差し込み、カバーを外します。



200025

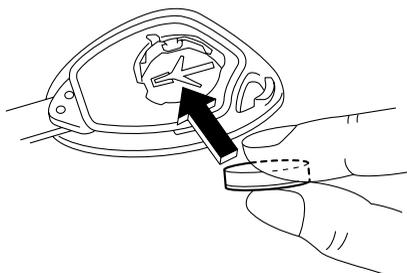
運転する前に

- ③電池とリモコンケースの間に絶縁テープなどを巻いたドライバーを差し込んで図のように取り出します。



200795

- ④新しい電池を⊕極を上にして図のように挿入し、カバーを確実に取り付けてください。



200117

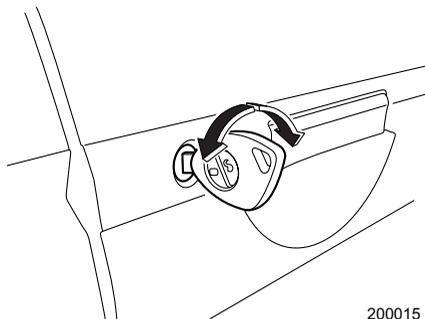
⚠ 注意

電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないようにとくにご注意ください。

🏠 アドバイス

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。故障の原因となりますので、端子部分などを曲げないように、注意してください。
- 電池はスバル販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

- 車外からキーによる施錠・解錠**
キーを確実に差し込んで車の後ろ側に回すと施錠され、前側に回すと解錠されます。



200015

🏠 アドバイス

車外から施錠・解錠できるのは運転席ドアだけです。

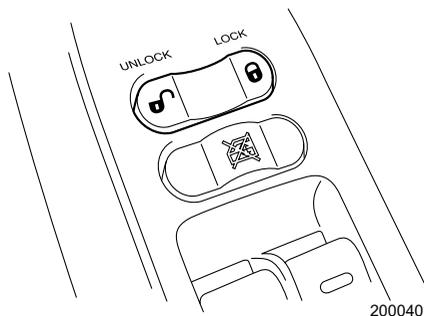
■車内から集中ドアロックによる施錠・解錠

運転席ドアの集中ドアロックスイッチの

🔒側を押すと全てのドアが施錠されます。

🔓側を押すと全てのドアが解錠されます。

リヤゲートも同時に施錠・解錠されます。



200040

⚠️ 注意

セフティノブで運転席ドアを施錠または解錠しただけでは集中ドアロックは作動しません。必ず集中ドアロックスイッチで施錠または解錠してください。

●キー閉じ込み防止機能

エンジンスイッチにキーが差し込まれている場合、ドアを施錠しないように働き、キーが車内に残したままになることを防止する機能です。

この機能の初期設定は非作動となっております。スバル販売店にて作動に切り替えることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

☆1-2ページ参照

▼キー閉じ込み防止機能が作動するとき

- ドアを開けた状態で、集中ドアロックスイッチの🔒側を押した場合、キー閉じ込み防止機能が作動します。

▼キー閉じ込み防止機能が作動しないとき

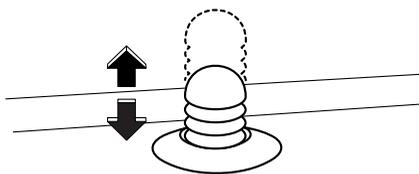
- セフティノブで施錠し、ドアを閉めたとき、機能は作動せず施錠されます。
- 車外から合いかぎを使い施錠した場合、機能は作動せず施錠されます。

🏠 アドバイス

車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

■車内からセフティノブによる施錠・解錠

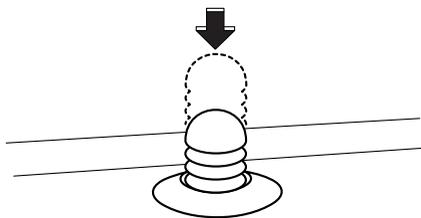
セフティノブを下げると施錠され、上げると解錠します。



200510

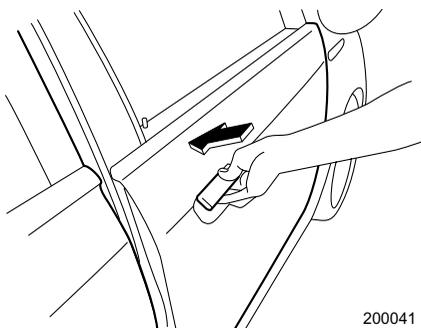
■キーを使わない車外からの施錠 ●フロントドア

①ドアを開けセフティノブを下げます。



200036

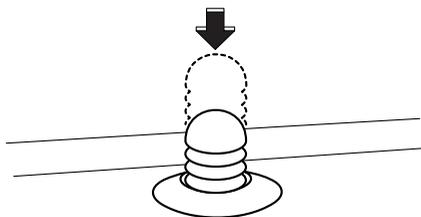
②ドアハンドルを引き上げたままドアを閉めます。



200041

●リヤドア

ドアを開けセフティノブを下げたままドアを閉めます。



200036

スマートキーレスシステム

スマートキーレスは携帯機を携帯することにより、運転席ドアハンドルの周囲約40～約80 cmに近づくと、キーを取り出すことなく解錠、離れると施錠が行えるシステムです。また、従来どおりの電波式リモコンドアロックも携帯機のボタン操作により使用できます。

🏠 アドバイス

スマートキーレスシステムではエンジンの始動・停止はできません。エンジンの始動・停止はキーで行ってください。

☆3-2ページ参照

⚠️ 警告

植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の機器を装着されているかたは、車両側発信アンテナから約22 cm以内の範囲に植込み型心臓ペースメーカー等を近づけないようにしてください。

車両側発信アンテナの電波により植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

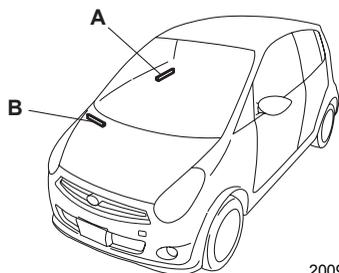
植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を装着されているかたは、後述の“スマートキーレスで使用している電波について”を参考に医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。車両側発信アンテナの電波により医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

- 車両側発信アンテナからの電波の発信を停止させる場合は、スバル販売店にご相談ください。

スマートキーレスで使用している電波について

- スマートキーレスでは、以下規則により定められた微弱電波を使用しております。
 - ・ 電波法施行規則第6条第1項第1号
- スマート機能は、従来の電波式リモコンドアロック機能の電波に加え、下記周波数の電波（※1）を使用しています。その電波はキーをエンジンスイッチから抜いている間、下記AおよびBの車両側アンテナから周期的に出力しています。

※1 電波周波数：131.06 kHz



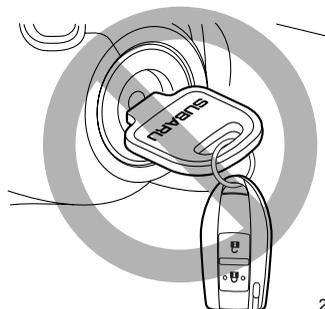
200970

⚠ 注意

携帯機の取扱いに関する注意項目

- 携帯機をキーに結合し使用しないでください。携帯機に膝や手などが当たり、キーを回してしまうおそれがあります。

☆1-15ページ参照



200934

- 携帯機をエンジンスイッチからのキーの抜き・差しにかかわらず車室内（例えば、インストルメントパネルの上、物入れ、シートの上など）または車両周辺2m以内（例えば、車庫での保管など）に絶対に放置・保管しないでください。

携帯機の位置によっては、勝手に施錠・解錠し、盗難やキー閉じ込みにあう恐れがあります。また、施錠・解錠を繰り返す、バッテリー上がりや、携帯機電池切れの原因となる場合があります。

- 長期間お車を使用しないとき、機能自体を使用しないとき、やむをえず携帯機を車室内や車の周辺に保管したいときは、「2-13」ページの“スマート機能の停止方法”を行ってください。

次ページへ ▶

運転する前に

▶前ページより

- 携帯機には電子部品が組み込まれています。故障を防ぐため、次のことをお守りください。
 - ・ 電池交換時以外は分解しないでください。電池交換の際は電池のショートおよび、⊕、⊖の方向に注意してください。
 - ・ 水にぬらさないでください。水にぬれた場合はすみやかに拭き取り、十分に乾かしてください。
 - ・ 強い衝撃を与えないでください。
 - ・ 磁気を帯びた物に近づけないでください。
 - ・ ダッシュボードの上など直射日光が当たったり高温になる場所には絶対に放置しないでください。電池の損傷や回路故障の原因になります。
 - ・ 超音波洗浄機などで洗浄しないでください。
 - ・ 湿気やホコリが多い場所に放置しないでください。携帯機故障の原因となります。
 - ・ パソコン、家電製品の近くに放置しないでください。携帯機が誤作動し、電池切れの原因となります。
 - ・ 携帯機は車両との通信のために、常時受信動作をし、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況によりますが、約1年～2年程度です。電池が切れた場合、新しい電池と交換してください。

携帯機ご使用上の注意項目

- 次のような場合には、携帯機・車両間の通信の妨げとなり、作動距離が著しく短くなる場合があります。また、施錠・解錠ができなくなる場合や施錠・解錠を繰り返す場合もあります。
 - ・ 近くに強い電波を発生する設備がある。
 - ・ 複数の携帯機を携帯している。

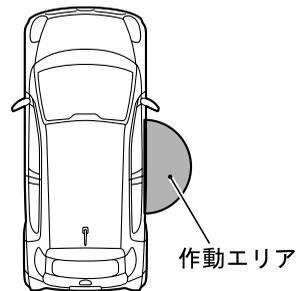
- 携帯機の近くに携帯電話などの無線通信機がある。
- 他の車両の携帯機またはリモコンキーなどの電波を発信するような製品を使用しているとき。
- 携帯機の近くに金属物がある。
- 金属製のアクセサリを携帯機に付けているとき。

 **アドバイス**

- 携帯機を紛失した場合は盗難などを防ぐため、携帯機の再登録をお奨めします。携帯機の再登録をするときはスバル販売店にご相談ください。
- スペアの携帯機が必要な場合はスバル販売店にご相談ください。

■スマート機能の作動エリア

ドアの施錠・解錠機能の作動エリアは運転席ドアハンドルを中心に約40～80 cmが目安となります。



200937

🏠 アドバイス

- 助手席ドア、後席ドアおよびリヤゲート付近はスマート機能の作動エリアではありません。
助手席ドア、後席ドアおよびリヤゲートの施錠・解錠は、携帯機のボタン操作（電波式リモコンドアロック）により行ってください。
- エンジンスイッチからキーを抜き、いずれのドアも開けていない場合は作動しません。
- 1週間以上お車をご使用にならなかった場合、車両バッテリー保護のため、スマート機能が自動的に停止します。電波式リモコンドアロックを作動させるか、いずれかのドアを開ければ、スマート機能は復帰します。
- 運転席ドアハンドルの近くで携帯機をいろいろな位置に動かし、あらかじめ作動エリアを覚えておくと便利です。
- 乗車時、携帯機の位置によっては、勝手に施錠・解錠することがありますが、エンジンスイッチにキーを差せば停止します。
- リモコンエンジンスターターによるエンジン暖気中は、作動エリアが狭くなることがあります。
- 携帯機の電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所（例：TV塔や発電所、放送局、無線機器使用場所など）、携帯電話通話中は、作動エリアが狭くなったり、作動しないこともあります。

■スマート機能の使い方

●解錠(スマートアンロック)

携帯機を携帯し、作動エリアに入ってください。

ドアが解錠し、非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。



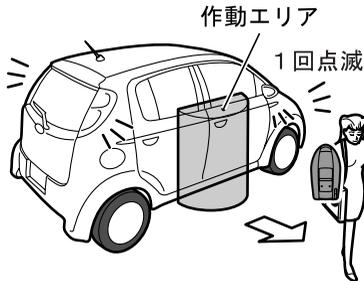
🏠 アドバイス

携帯機を作動エリアに急に接近させた場合や、急なドアハンドル操作では解錠できない場合があります。その際は、ドアハンドルを一度もどし、解錠されたことを確認してから再度ドアハンドルを引いてください。

運転する前に

●施錠(スマートロック)

すべてのドアを開けてから携帯機を携帯し作動エリアから出てください。約2～3秒後にドアが施錠し、非常点滅灯(ハザードランプ)が1回点滅します。



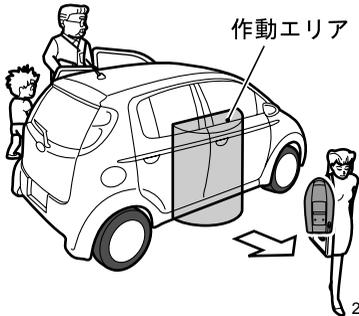
200939

🏠 アドバイス

車を離れるときは、施錠を確認してください。

以下に示す内容は、施錠忘れの原因となりますので、充分にお読みいただきご理解ください。

- ドアを開けたまま作動エリアから出た場合は施錠されません。ドアが閉まったことを確認して作動エリアから出てください。



200940

- 施錠(スマートロック)は、全てのドアを閉め、作動エリア内から出て約2～3秒後に作動します。作動前にいずれかのドアを開けるとスマートロックしませんので、その場合は、すべてのドアを閉めた後、再度作動エリア内に入ってください。

●スマートロック作動時間の設定変更

スバル販売店でスマートロックするまでの作動時間の設定を変えることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

●非常点滅灯(ハザードランプ)の点滅の解除

解錠時や施錠時に点滅する非常点滅灯を消灯させることができます。

スバル販売店でキャンセルすることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

●ルームランプ連動

ルームランプスイッチが中間(ドア連動)位置にあるとき、携帯機により解錠またはドアの開閉を行うとルームランプが約30秒間点灯し、徐々に消灯します。

点灯中以下の操作をするとルームランプは徐々に消灯します。

- 携帯機の **🔒** ボタンを押して、ドアを施錠した場合
- エンジンスイッチにキーを差し込んだ場合

スバル販売店でルームランプ連動の条件の設定を変えることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

☆1-2、4-60ページ参照

■スマート機能の停止方法

スマート機能の停止方法は2種類あります。以下の場合は、カック内に記載された方法でスマート機能を停止させてください。スマート機能を停止させた場合でも、電波式リモコンドアロックは作動します。

- 車両側発信アンテナからの電波の発信を一時的に停止させたいとき（方法A）
- 長期間（3日以上）お車を使用しないとき（方法A）
- スマート機能自体を使用しないとき（方法BまたはA）
- やむをえず携帯機を車室内や車の周辺に保管したいとき（方法BまたはA）

方法 A（車両側発信アンテナからの電波発信を停止させる）

すべてのドアを開けてエンジンスイッチがLOCK位置（キーは差さっていない状態）で下記 a)～c) いずれかの操作を行ってください。

（各々の操作は5秒以内に行ってください）

- a) エンジンスイッチにキーを差して抜く操作を3回行う。
 - b) ライティングスイッチをOFF → ⅡD位置に回す操作を3回行う。
 - c) ライティングスイッチOFFの状態からライティングスイッチでパッシング操作を3回行う。
- ブザーが3回鳴り、スマート機能が停止します。
復帰させるには、エンジンスイッチにキーを差し、ONにしてください。
 - スマート機能が復帰します。

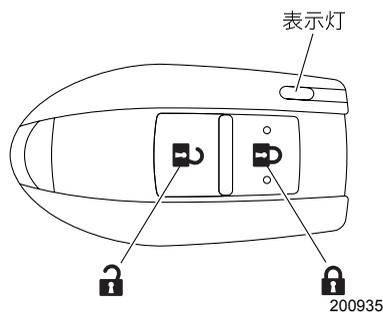
🏠 アドバイス

方法Aは一時的な停止方法です。スマート機能を停止させた後、エンジンスイッチをONにするとスマート機能が復帰します。

方法 B（携帯機からのスマート機能の電波を停止させる）

携帯機の   ボタンを同時に8秒間押し続けてください。表示灯が緑色から赤色の点灯へ切り替わり、携帯機がスマート機能停止モードになります。

復帰させるには、携帯機の   ボタンを同時に8秒間押し続けてください。表示灯が赤色から緑色の点灯へ切り替わり、携帯機が通常モードになります。



運転する前に

■施錠忘れ防止ブザー

施錠忘れを防止するため、ブザー音により警告する機能があります。お買い上げ時は設定がOFFになっていますので、ご希望により次の切り替え方法に従い、設定ON/OFFの切り替えを行ってください。



🏠 アドバイス

ブザーが鳴った状態でドアを閉め車から離れると、スマートロックしないため施錠忘れになります。必ず一旦作動エリア内に入り、車から離れてください。

●施錠忘れブザー ON/OFF 切り替え方法

- ① エンジンスイッチからキーを抜き、すべてのドアを開める。
- ② 運転席ドアのみ開ける。
- ③ 10秒以内にキーをエンジンスイッチに差し込み、ON(1回目)にした後、更にエンジンスイッチのOFF-ONを8回操作する。(最後はON位置)

☆3-2ページ参照

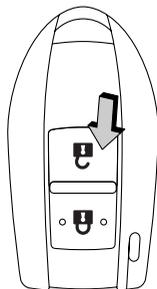
- ④ 30秒以内にドアの開/閉を6回以上した後、ブザーが鳴る(ピー音1秒)ことを確認する。

■携帯機のボタン操作による操作方法(電波式リモコンドアロック)

携帯機のボタンを押すと電波により、車から離れたところ(約1m)から全ドア(リヤゲート含む)の解錠・施錠もできます。

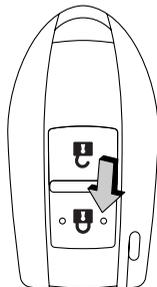
●解錠

車のまわりから携帯機の🔓ボタンを押すとすべてのドア(リヤゲート含む)が解錠します。このとき非常点滅灯(ハザードランプ)が2回点滅します。



●施錠

車のまわりから携帯機の🔒ボタンを押すとすべてのドア(リヤゲート含む)が施錠します。このとき非常点滅灯(ハザードランプ)が1回点滅します。



●自動施錠

解錠してから30秒以内にドアまたはリヤゲートを開けなかった場合は、自動的に施錠されます。

🏠 アドバイス

- 車の周囲約1m以内で作動しますが、周囲に強い電波やノイズがある場合(例: TV塔や発電所、放送局、無線機器使用場所など)は、作動距離が変わることがあります。
- 車を離れるときは、施錠を確認してください。
- 携帯機を紛失した場合は盗難などを防ぐため、携帯機の再登録をお奨めします。携帯機の再登録をするときはスバル販売店にご相談ください。
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているときやドアまたはリヤゲートが開いているときは作動しません。
- 非常点滅灯の点灯・消灯およびルームランプの点灯時間はスバル販売店で設定が出来ます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

☆2-12ページ参照

■ライト消し忘れ防止機能

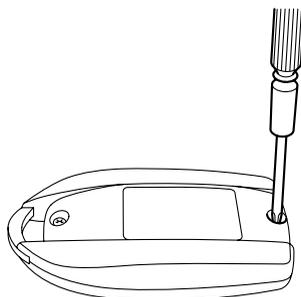
ライティングスイッチが③Dのときは、スマート機能および携帯機のボタン操作による施錠・解錠は行えないようになっています。

■携帯機の電池交換

電波式リモコンドアロックの作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられますので早めに電池を交換してください。

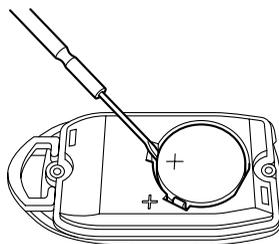
使用電池……ボタン電池CR2032

- ①スクリューを2本外し、カバーを外します。



200932

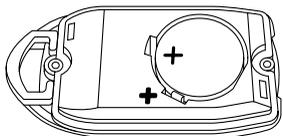
- ②電池と携帯機ケースの間に絶縁テープなどを巻いたドライバーを差し込んで図のように取り出します。



200931

運転する前に

- ③新しい電池を⊕極を上にして図のように挿入し、カバーを確実に取り付けてください。



200930

⚠ 注意

電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないようにとくにご注意ください。

🏠 アドバイス

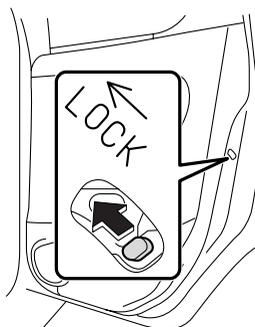
- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。故障の原因となりますので、端子部分などを曲げないように、注意してください。
- 電池はスバル販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

チャイルドプルーフ

左右のリヤドアにあり、レバーを「LOCK」側になると、車内のドアハンドルではリヤドアを開けられなくすることができます。後席にお子さまを乗せたときにご使用ください。

■使用方法

チャイルドプルーフのレバーを上側にしてドアを閉めると、車内から開けられなくなります。解除するときはレバーを下側にしてください。



200038

■チャイルドプルーフが働いているときのドアの開けかた

ドアを解錠し、車外からドアハンドルを引き上げて開けます。

車内から開けるときは、集中ドアロックスイッチを「UNLOCK」にして、ウィンドウを下げて車外のドアハンドルを引き上げて開けます。

パワーウィンドウ

- パワーウィンドウは、エンジンスイッチがONのとき使用できます。このとき運転席ウィンドウの作動表示灯が点灯します。
- 運転席ウィンドウの作動表示灯が点滅しているときは、パワーウィンドウの初期設定をしてください。

☆2-19ページ参照

警告

開閉するときは

- パワーウィンドウが閉まるときには大きな力が働きます。挟まれると危険ですので閉める前に窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので小さなお子さまには操作させないでください。
- お子さまを乗せるときにはロックスイッチをロックにしておいてください。お子さまがウィンドウスイッチをいたずらして手や首を挟むことを防止します。

☆2-18ページ参照

注意

ウィンドウの全開、全開後に同じ方向にスイッチを押し続けしないでください。パワーウィンドウの故障の原因になります。

アドバイス

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断られたときは、必ずパワーウィンドウの初期設定をしてください。

初期設定がされないと運転席ウィンドウは自動で全開（全閉）しません。

☆2-19ページ参照

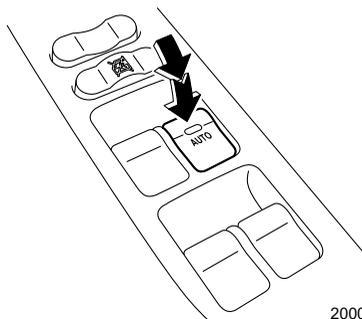
■スイッチの操作

●運転席ウィンドウの開閉操作方法

スイッチを軽く操作している間、作動します。強く操作すると、自動で全開（全閉）します。

開けるとき：

- スイッチを軽く押します。押している間ウィンドウが下降します。
- スイッチを強く押すと自動で全開になります。途中でウィンドウの下降を停止させるときは、スイッチを軽く引き上げます。

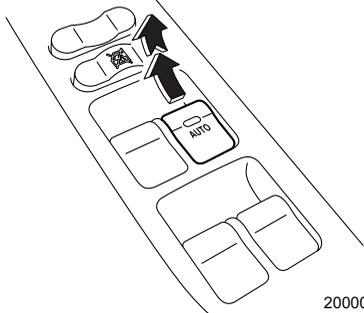


200011

運転する前に

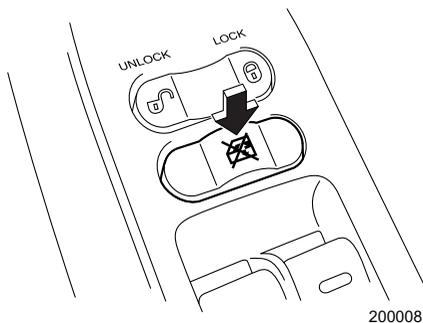
閉めるとき：

- スイッチを軽く引き上げます。引き上げている間ウィンドウが上昇します。
- スイッチを強く引き上げると自動で全閉になります。途中でウィンドウの上昇を停止させるときは、スイッチを軽く押します。



● ロックスイッチの操作方法

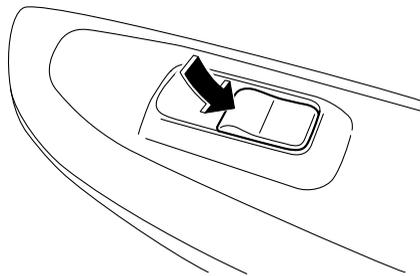
ロックスイッチを押すと助手席と後席のウィンドウは開閉できなくなります。もう一度スイッチを押すとロックは解除されます。



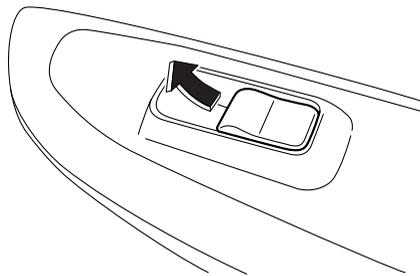
● 助手席、後席ウィンドウの操作方法

それぞれのウィンドウを開閉します。スイッチを操作している間作動します。

開けるとき：スイッチを押します。



閉めるとき：スイッチを引き上げます。



■ウィンドウ反転機能

運転席のウィンドウが自動全閉中、窓枠とウィンドウとの間に異物の挟み込みを感知すると、ウィンドウの上昇が停止し、自動で少し下降し止まります。

⚠ 注意

- ウィンドウを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、挟み込みを感知しない領域があります。指など挟まないように注意してください。
- ウィンドウ反転機能は自動全閉時のみ作動します。スイッチを引き続けた状態では作動しません。指など挟まないように注意してください。

🏠 アドバイス

- 環境、走行条件により異物を挟んだときと同じ衝撃がウィンドウに加わるとウィンドウ反転機能が作動することがあります。
- 故障などでウィンドウ反転機能が作動してしまい運転席ウィンドウを閉めることができない場合、スイッチを引き続けると閉めることができます。
- バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断られたときは、必ずパワーウィンドウの初期設定をしてください。
初期設定がされないと、ウィンドウ反転機能が作動しません。

■パワーウィンドウの初期設定

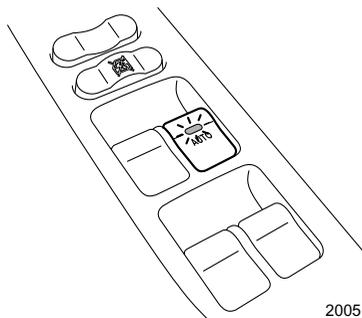
バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断られたときは、必ずパワーウィンドウの初期設定を行ってください。パワーウィンドウの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。

- 運転席ウィンドウの自動全開（全閉）

☆2-17ページ参照

- ウィンドウ反転機能

このとき運転席ウィンドウのスイッチの作動表示灯が点滅します。



200516

運転する前に

●初期設定のしかた

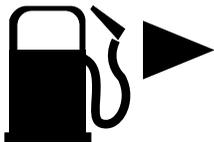
- ① ドアを閉め、エンジンスイッチをONにします。
- ② 運転席ウィンドウスイッチを下に押し、半分くらいまでウィンドウを開けます。
- ③ 運転席ウィンドウスイッチを上を引き続け、ウィンドウを全閉にします。全閉後、約1秒間スイッチを上を引き続けてください。

初期設定が完了すると作動表示灯が点滅から点灯に切り替わります。

燃料補給口

メーターの燃料計に燃料補給口が右側にあることをお知らせする表示があります。

- 使用燃料：無鉛レギュラーガソリン
- タンク容量：約30ℓ



200115

警告

燃料補給時には必ず次のことをお守りください。

- ガソリンは非常に着火しやすいため、燃料補給時はタバコなど一切の火気は厳禁です。
- エンジンは必ず止めてください。
- フューエルキャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外してください。急に開けると燃料が補給口から吹き返すおそれがあります。
- フューエルキャップは確実に閉めてください。閉まっていないと走行中に燃料が漏れて火災につながるおそれがあります。

- 静電気除去キャップを採用していますので、フューエルキャップは車に合ったスバル純正品を使用してください。

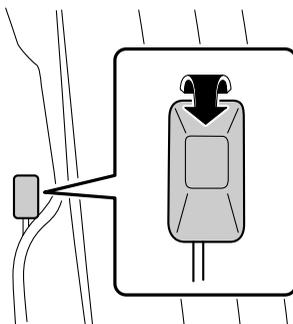
☆1-24ページ参照

注意

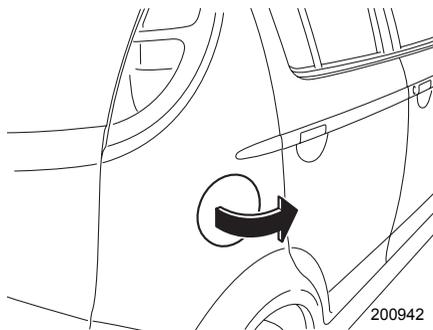
セルフ補給のときの燃料補給は、給油ガンが自動停止した時点でお止めください。

■フューエルリッドの開閉

開けるときは、運転席右下にあるフューエルリッドオープナーレバーを引きます。



201153



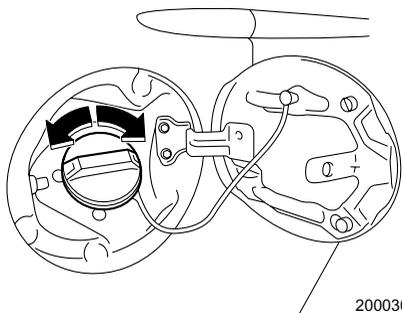
200942

閉めるときは、ロックするまでフューエルリッドを手で押し付けてください。

ボンネット

■フューエルキャップの開閉

開けるときは、フューエルキャップを左に回します。燃料補給後、閉めるときは、「カチッ、カチッ」と2回以上音がするまで右に回します。



200030

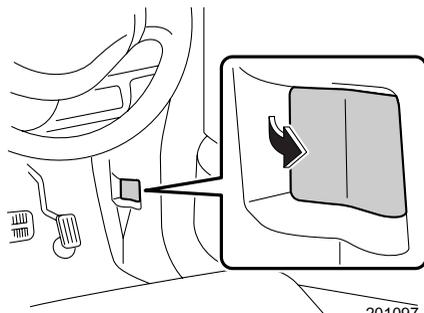
⚠ 注意

走行後すぐに開けるときには
部品が熱くなっているため、やけどをしないように注意してください。

ボンネットを開けるときには
ワイパーアームは起こさないでください。また、ワイパーを作動させないでください。ボンネットとワイパーアームが接触しボンネットを傷つけるおそれがあります。

■開けるとき

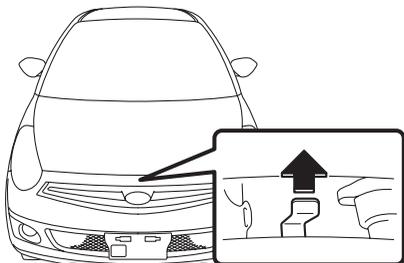
- ① ボンネットのオープナーレバーを引きます。レバーは運転席側のインストルメントパネル右下にあります。



201097

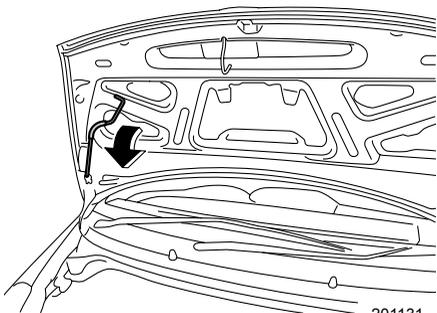
運
転
す
る
前
に

- ②フロントグリルとボンネットのすき間からレバーを上引き上げてロックを外し、ボンネットを開けます。



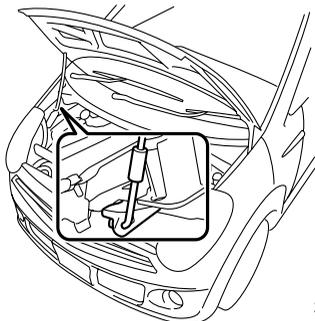
200943

- ③ボンネットの裏にあるステーをホルダーから外します。



201131

- ④ステーをフェンダー横のストッパー穴に入れ、確実に固定します。



200944

■閉めるとき

ステーを外してホルダーに収め、ボンネットをゆっくり降ろしてボディ近くになったら（約15 cm）手を離します。

⚠ 注意

ボンネットを開閉するとき

- ボディ近くまで降ろして手を離す際には指や他の物を挟まないよう充分注意してください。
- 必ず走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。
確実にロックされていないまま走行すると、走行中開くことがあり非常に危険です。
- 風の強いときには充分注意して開けてください。突然ステーが外れて閉まることがあります。

🏠 アドバイス

ボンネットを閉めるとき

ボンネットを上から強く押しつけないでください。ボンネットがへこむことがあります。

リヤゲート

■施錠、解錠

電波式リモコンドアロック、または集中ドアロックスイッチにて施錠、解錠ができます。

🏠 アドバイス

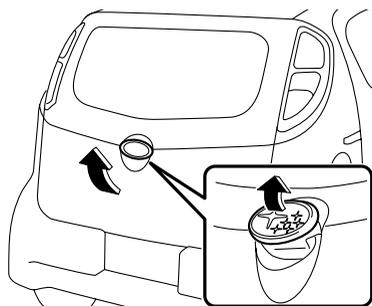
<スマートキーレスシステム付車>

リヤゲート付近はスマート機能の作動エリアではありません。

リヤゲートの施錠・解錠は携帯機のボタン操作（電波式リモコンドアロック）により行ってください。

■開けるとき

アウターハンドルを引いてリヤゲートを少し開けます。手で支えながらゆっくりと最上部（全開位置）まで持ち上げます。

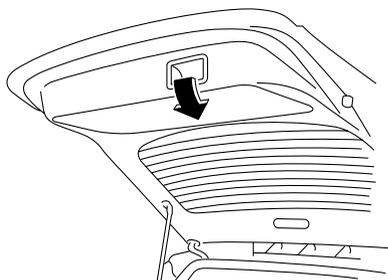


200034

■閉めるとき

リヤゲートをゆっくり下げて、上から手で押さえつけるように閉めます。

半ドアでないことを確かめます。



200035

⚠ 注意

- 開閉や荷物の出し入れのとき、リヤゲートが頭や顔にぶつからないように注意してください。
- 走行前リヤゲートを完全に閉めてください。走行中に開くと荷物が落ちることがあります。
- 走行中や長時間のアイドリングをしているときはリヤゲートを完全に閉めてください。車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
- リヤゲートを閉めるときは、他の人の手（とくにお子さまには気をつけてください）や荷物を挟まないように注意してください。
- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするとき、排気ガスの熱でやけどをしないように注意してください。

次ページへ ▶

運転する前に

▶前ページより

- リヤゲートを支えているガスステータ部に薄いビニール袋、テープ等が噛み込まないように、また、荷物の積み下ろしなどで傷をつけないように注意してください。ステータのガス抜けにより、ゲートが自然に閉じてしまう場合があります。
- リヤゲートにスバル純正品以外のアクセサリ用品を取り付けないでください。リヤゲートの重量が極端に重くなると、開けたときにステータが支えきれなくなるおそれがあります。



アドバイス

リヤゲートを開閉するとき

- アウターハンドルを操作するときは、爪などを挟まないよう気をつけてください。
- キャリアなどに積んだ荷物に当たらないように気をつけて開けてください。
- 傾斜した場所では、平坦な場所よりもリヤゲートの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。

シート

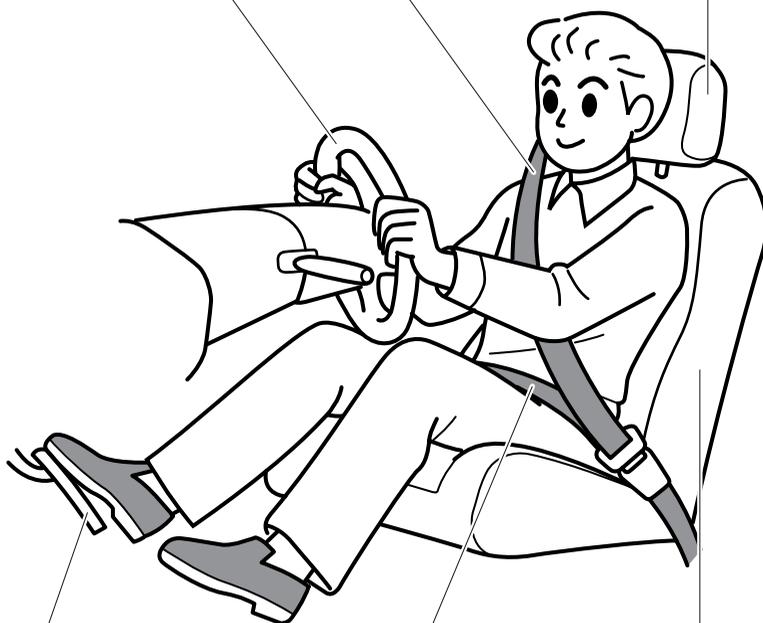
正しい運転姿勢

無理のない、正しい運転（乗車）姿勢がとれるようにシートを調整します。ミラーも調整します。そしてシートベルトを正しく装着します。

ハンドル操作が
楽にできること
(運転席)

ねじれがなく肩に
充分かかること

ヘッドレスト（ピロー）の
中央が耳の後方にくること



ペダルが十分に
踏み込めること
(運転席)

腰骨のできるだけ
低い位置に密着さ
せること

背当てはできるだけ立てて背中を
離さず、深く腰掛けること
(ハンドルに近づき過ぎないこと)

運転する前に

200134

 **警告**

シートなどの調整は、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと重大な傷害につながるおそれがあります。

- シート調整は必ず走行を始める前にしてください。とくに運転席は運転中に行わないでください。加速、減速でシートが動いてペダルに足が届かなくなったり、背当てが倒れてハンドルに手が届かなくなったり、運転への注意がそれ、運転ミスなどを起こし、重大な事故や傷害につながるおそれがあります。
- シートを調整した後はシートを軽くゆすり「確実に固定されていること」を確かめてください。不完全なままではシートが動いたり、シートベルトの機能が十分に働かないことがあります。
- 走行中は助手席も含めて背当てを必要以上に倒さないでください。万一のとき、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- 背当てと背中の中にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないため危険です。
- フロントシートの下に物を置かないでください。物が挟まってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドレストを外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

 **注意**

シートの調整は必ず大人が行い、シートや動いている部分に手を近づけないでください。また、同乗者や荷物にも注意してください。挟まれたり、荷物を損傷したりすることがあります。

 **アドバイス**

納車時のシートダストカバー（シート汚れ防止用のポリエチレン製カバー）やフロアマットの汚れ防止フィルムは必ず取り外してから使用してください。

フロントシート

シートのドア側と下部のレバーとダイヤル操作で調整ができます。

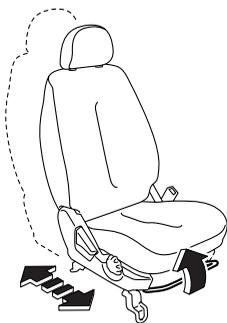
警告

調整は、運転中に行わないでください。加速、減速でシートが動いてペダルに足が届かなくなったり、背当てが倒れてハンドルに手が届かなくなったり、運転への注意がそれ、運転ミスなどを起こし、重大な事故や傷害につながるおそれがあります。

☆2-26 ページの注意事項もお守りください。

●前後の調整（スライド調整）

下部のレバーを完全に引き上げた状態で前後に動かして調整します。レバーを下ろし、ロックを確認します。



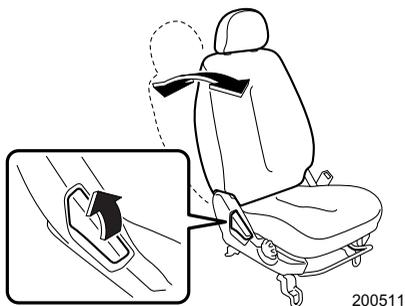
注意

後方にスライドする際には、後席の乗員の足が挟まれないように注意してください。

●背当て角度の調整

（リクライニング調整）

シートのドア側レバーを完全に引き上げた状態で背当ての角度を調整します。レバーを下ろし、ロックを確認します。

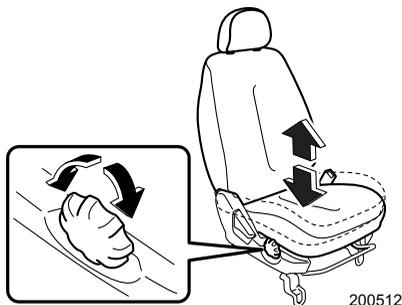


注意

調整する際には、レバーとレバーカバー内に指を挟まないよう気をつけてください。

●上下調整（運転席のみ）

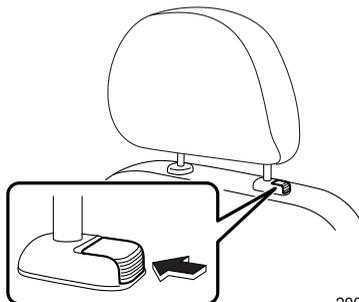
ダイヤルを前側に回すとシートクッションが下がり、ダイヤルを後ろ側に回すとシートクッションが上がります。



運転する前に

■ヘッドレストの高さ調整

- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは、固定解除ボタンを押した状態で押し下げます。
- 取り外すときは、固定解除ボタンを押した状態で引き抜きます。



200514

⚠ 警告

運転するときには

ヘッドレストを確実に取り付けてください。

外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

🏠 アドバイス

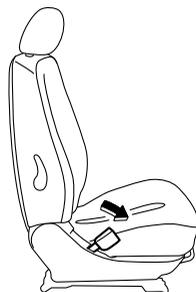
ヘッドレストが屋根に当たって取り外しにくいときは、背当てを倒すと取り外せます。

■助手席マルチユーティリティシート（水平可倒機構）

助手席の背当てを前方に折りたたむことで、駐車中に小物を置くことができます。また、リヤシートの背当ても一緒に前方に倒すことで、長い荷物を積むことができます。

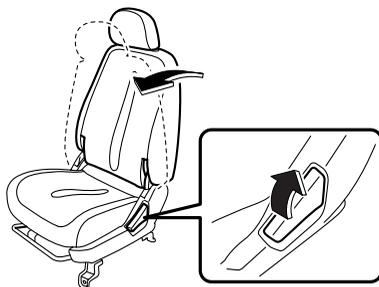
●背当てを折りたたむとき

- ①シートベルトのバックルを一番前に倒します。



200910

- ②ドア側レバーを引き上げた状態で、背当てを最前傾のロック位置に起こします。レバーを下ろし、ロックを確認します。

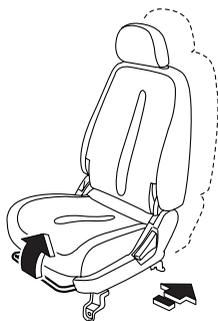


200911

🏠 アドバイス

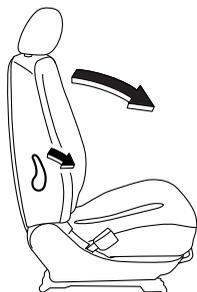
背当てを最前傾のロック位置よりも前に倒してしまったとき、背当てをゆっくりと後方に起こして背当てが最初にロックする位置（最前傾のロック位置）まで戻します。

- ③前席下部のレバーを引き上げて、シートを後端付近まで動かします。



200912

- ④背当て側面のレバーを前に倒し、背当てを前に折りたたみます。



200913

- ⑤シートを前後に軽くゆすり、確実に固定されていることを確かめます。

🏠 アドバイス

このとき背当てを上下に軽くゆすると背当てが上下に少し動きますが、異常ではありません。

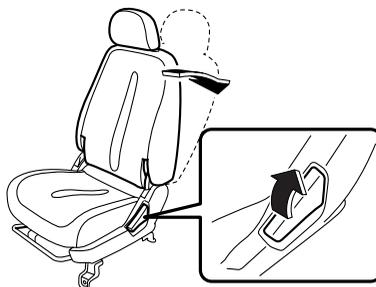
●元に戻すとき

- ①背当て側面のレバーを下に押しながら、背当てをを起こしロックします。



200914

- ②ドア側レバーを引き上げた状態で、背当てを好みの位置に調整します。



200915

運転する前に


警告

- 折りたたんだ背当ての上に人を乗せて走行しないでください。ブレーキをかけたときや衝突のときなどに、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 背当てを折りたたんで荷物を運ぶときは、荷物を確実に固定してください。ブレーキをかけたときや衝突のときなどに、重大な傷害につながるおそれがあります。


注意

- 操作するときは、操作する人やまわりの人の手や足をはさまないように充分注意してください。
- 背当てを折りたたむときは、シート上の荷物等をはさまないように注意してください。シートが損傷するおそれがあります。
- 背当てを折りたたんでいるときは、ドア側レバーを操作しないでください。背当てのロックが外れて、背当てに載せた飲み物がこぼれたり、物が落下するおそれがあります。
- 折りたたんだ背当ての上に乗ったり、重いものを置くなどして無理な力をかけないでください。思わぬけがやシートを損傷するおそれがあります。


アドバイス

- 背当てを折りたたんだ状態では、ドア側レバーを引き上げても背当てを起こせません。背当てを起こすときには、「●元に戻すとき」で操作します。
- 背当てが最前傾のロック位置より後ろのロック位置にあるときには、背当て側面のレバーを操作しても水平に折りたためません。
- シート前後位置が前方にあるときには、背当て側面のレバーを操作してもヘッドレストがインストルメントパネルに当たり、背当てを折りたたんだり戻すことができません。
- 背当てを折りたたむ前にシートベルトのバックルを前方に倒しておかないと、折りたたんだときシートにバックルの跡が残ることがあります。

リヤシート

■ムチ打ち軽減機能付シート（フロントシートのみ）

後方から追突されたとき乗員を背当てに沈み込ませ、頭部や頸部を支える機構です。

注意

下記の状態で万一追突されたとき、この機構が十分に発揮されません。

- 背当てを必要以上に倒れているとき
- 背当てと背中の上にクッション等を挟んでいるとき
- シートに浅く座っているとき

警告

- 背当てを倒して荷室として使用する場合は、お子さまも含めて走行中、人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けることがあります。
- 荷物や長いものをのせたときは、荷物を固定してください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛びだし重大な傷害を受けることがあります。

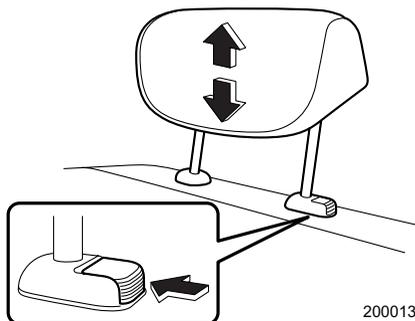
注意

- リクライニング操作後は、背当て上端を前後にゆすり、シートが確実に固定されていることを確認してください。また、走行中は必要以上に背当てを倒さないでください。万一のとき、シートベルトが肩から外れ、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- 背当ての角度を調整するときは、リクライニングヒンジカバー内へ手を入れないでください。
- ISO-FIX方式の乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）チャイルドシートを装着したとき、リクライニング操作を行わないでください。

運転する前に

■ピローの高さ調整 🍀

- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは、固定解除ボタンを押した状態で押し下げます。
- 取り外すときは固定解除ボタンを押した状態で引き抜きます。



🏠 アドバイス

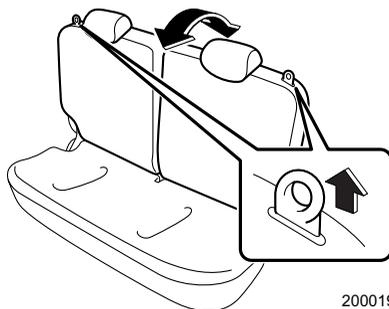
後部座席に乗員がないときは、ピローを下げておくと視界を妨げません。

■背当て角度の調整 (リクライニング調整)

背当ての上にあるレバーを引き上げた状態で、背当ての角度を調整します。

左右独立して行えます。

※フロントシートのような背当てを戻すプリングはありません。

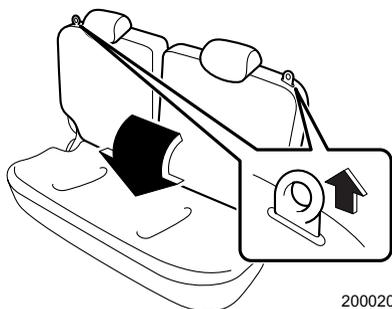


■荷室として使用するとき

リヤシートの背当てを倒すことにより、荷室として広く使うことができます。背当ては左右に分割されているシートをそれぞれ倒すことができます。

●背当てを倒すとき

背当ての上にあるレバーを引き上げた状態で、背当てを前に倒します。一番前に倒れた状態でロックします。



200020

🏠 アドバイス

シートベルトのタングプレートがホルダーに格納されている場合、タングプレートをホルダーから外してから背当てを倒してください。

☆2-40ページ参照

●背当てを元に戻すとき

背当ての上にあるレバーを引いたまま、背当てを起こし、確実にロックします。

⚠ 警告

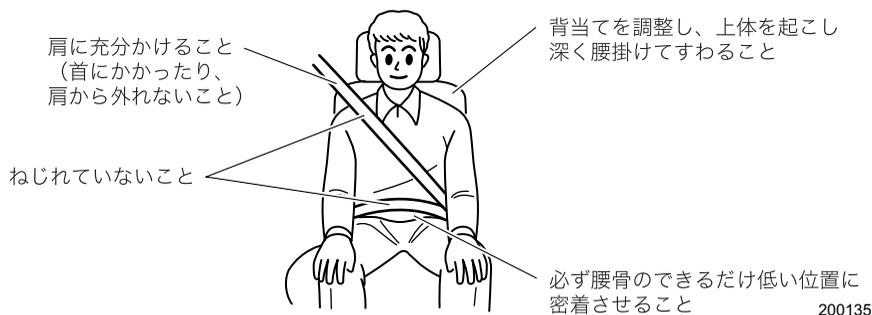
- 背当てを元に戻したときは、背当てを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などに背当てが倒れたり、荷室内の物が飛び出すなど思わぬ事故につながり重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトが背当てに挟まれていることを確認してください。シートベルトが背当てに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

運転する前に

シートベルト

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。



警告

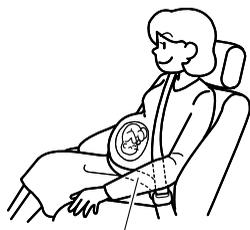
シートベルトの着用は、次の事項を必ずお守りください。お守りいただかないと重大な傷害につながるおそれがあります。

- 走行する前に全員が必ずシートベルトを着用してください。
- シートベルトは一人用です。二人以上で一本のベルトを使用しないでください。
- シートベルトはねじれたり、裏返しにならないように使用してください。ねじれたり裏返しになっているとベルトの幅が狭くなったり、局部的に強い力を受けて万一のとき危険です。
- シートベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。柔らかい腹部にかけた場合は万一のとき強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

- 肩ベルトは脇の下を通さずに確実に肩にかけてください。肩に充分にかかっていないと上半身が拘束されず十分な効果を発揮しません。
- シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰掛けた状態で着用してください。正しい姿勢については「正しい運転姿勢」(2 - 25 ページ)をご覧ください。
- シートの背当てを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上近づいて運転しないでください。
- シートベルトを洗濯バサミやクリップなどでたるみをつけないでください。十分な効果を発揮しません。

⚠ 警告

- 妊娠中の方や疾患のある方も、万一のときに備えシートベルトを着用してください。局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。肩ベルトは確実に肩に通し、腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。



腰骨のできるだけ低い位置



胸部にかかるように

200136

- シートベルトのバックルに異物が入らないようにしてください。異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらなくなり、走行中に外れる場合があります。
- お子さまもシートベルトを必ず着用させてください。膝の上でお子さまを抱いていても、急ブレーキや衝突したときなどに充分支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。
- 法律により6歳未満のお子さまを対象にチャイルドシートの使用が義務づけられています。6歳未満のお子さまはスバル純正チャイルドシート（別売）をご使用ください。6歳以上のお子さまでも、シートベルトを着用したときベルトが首、あご、顔などに当たるときには、スバル純正チャイルドシートを使用してください。万一のとき、ベルトによる負傷を防ぎます。

スバル純正チャイルドシートの使用方法は付属の取扱説明書をご覧ください。

<選択の目安>

	ベビーシート	チャイルドシート	ジュニアシート
体重 (目安)	9 kg以下	9～18 kg	18～36 kg
身長 (目安)	70 cm 未満	100 cm 未満	145 cm 未満
年齢 (目安)	0か月～ 9か月頃 まで	4か月～ 4歳頃 まで	4歳～ 12歳頃 まで

 **警告**

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。とくにチャイルドシート固定機構付シートベルトの場合は、シートベルトに体を巻きつけたりして遊んでいるときに、誤ってチャイルドシート固定機構が作動すると、ベルトが引き出せなくなり、窒息などの重大な傷害につながるおそれがあります。

万一、誤ってチャイルドシート固定機構を作動させてしまい、シートベルトを外せなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。



200364

- シートベルトにほつれや切り傷ができたり、金具部などが正常に動かなくなったときは、シートベルトを交換してください。また、装着した状態で万一事故にあった場合は、外観に異常がなくても必ずスバル販売店で交換してください。そのまま使用すると正常に働かず、十分な効果を発揮しません。

- シートベルトの改造や取り外しなどはしないでください。衝突などのとき十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。ベンジンやガソリンなどの有機溶剤や漂白剤はシートベルトを弱めるため絶対に使用しないでください。

 **注意**

炎天下に長時間駐車し、室内が高温になっている場合は、金属部分を持たずに、樹脂部分を持ってシートベルトを着用してください。シートベルトの金属部が熱くなっている場合があり、やけどにつながるおそれがあります。

フロントシートベルト

身体の動きに合わせて自由に巻き取り、引き出しができますが、強い衝撃を受けたときやベルトを急激に引き出そうとするとベルトが自動的にロックします。

(ELR機構)

■ 3点式シートベルトの着用のしかた

● 着用のしかた

- ① タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。



200119

- ② ベルトがねじれないようにし、タングプレートをバックルの中へ、“カチッ”と音がするまで差し込みます。



201005

- ③ 正しい姿勢で腰掛け、腰のベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。



200121

● 外すとき

外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。

ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

🏠 アドバイス

- ベルトが首に当たったり、肩から外れて腕にかかってしまうときは、ショルダーアジャスターでベルトの高さを調整します。

☆2-38ページ参照

- ベルトが引き出せないときはベルトをゆるめてもう一度ゆっくり引き出します。それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

■シートベルト警告灯

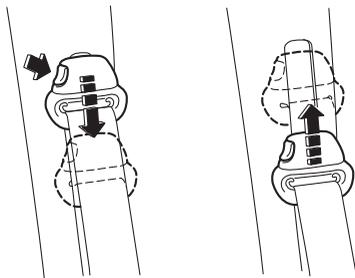
エンジンスイッチがONで運転席シートベルトが未着用の場合、メーター内の警告灯が点灯します。運転席シートベルトを着用すると消灯します。



200122

■シートベルトの高さ調整 (ショルダーアジャスター)

- ①上げるときはショルダーアジャスター本体を上動かします。下げるときはボタンを押しながらショルダーアジャスターを動かして最適な位置を選びます。
- ②ショルダーアジャスターが固定されていることを確認します。



200000

⚠ 警告

ショルダーアジャスターを調整するときは、次のことを守りください。

守らないと衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

- シートベルトが首に当たらないように、また、肩の中央に充分かかるようにできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整した後は、確実に固定されていることを確認してください。

🏠 アドバイス

アジャスターが上がらない場合、ベルトが引き出せず固定された状態になっている場合があります。ベルトが引き出せる状態にしてから、アジャスターを操作してください。

☆2-37ページ参照

■プリテンショナー付シートベルト

プリテンショナー付シートベルトは、前方からの強い衝撃を受けると作動し、シートベルトを瞬間的に引き込んで前席乗員をシートへ確実に固定してシートベルトの効果をいっそう高めます。

運転席のプリテンショナーは、肩ベルトと腰ベルトに、助手席のプリテンショナーは肩ベルトに装着されており、シートベルトを着用していなくても作動します。



運転席側



助手席側

⚠ 注意

プリテンショナー付シートベルトの効果を発揮させるため次の事項を必ず守ってください。

- シートを正しい位置に調整する。

☆2-25ページ参照

- シートベルトを正しく着用する。

次のような作業をするときは、必ずスバル販売店にご相談ください。

- シートベルトを取り外すとき
- シートベルトを廃棄するとき
- 廃車するとき

🏠 アドバイス

- プリテンショナー付シートベルトは一度作動すると、ベルトの引き出し、巻き取りができなくなります。プリテンショナー付シートベルトが作動した場合は、必ず運転席、助手席とも同時にスバル販売店で交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトは、SRS エアバッグシステムと同時に作動します。

運転する前に

リヤシートベルト

3点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

フロントシートベルトと同じ方法で着用します。

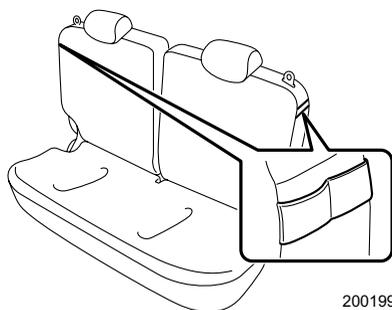
☆2-37ページ参照

■シートベルトの格納

シートベルトを使用しないときは、タングプレートを格納することができます。

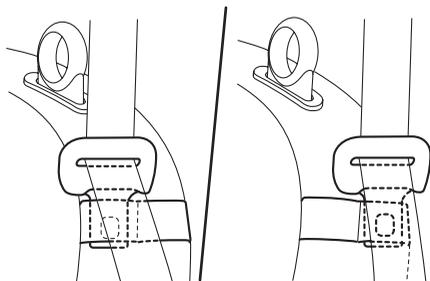
●格納方法

リヤシートの横にタングプレートを格納するホルダーがあります。タングプレートをホルダーに差し込んで格納してください。



200199

ホルダーは前後に一つずつあります。背当ての角度に応じて格納するホルダーを使い分けてください。



200200

🏠 アドバイス

背当てを倒して荷室として使用する場合は、タングプレートをホルダーから外してください。

■チャイルドシート固定機構付シートベルト

後席にチャイルドシート固定機構付シートベルトが組み込まれています。

チャイルドシート固定機構を作動させると引き出し方向にベルトが動かないようにできるため、チャイルドシート取り付け時に便利です。

[ISO-FIX方式において、本車両用に認可を取得した乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）チャイルドシートを専用のISO-FIX固定バーおよびテザーアンカーに取り付ける場合には、2-42 ページの「ISO-FIX固定バー および テザーアンカー」をご覧ください。]

警告

チャイルドシートは確実に固定してください。確実に固定されていないと衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

（詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。）

アドバイス

- シートベルトを全て引き出した後、ベルトを巻き取らせていくときにチャイルドシート固定機構が働き、作動音がします。この場合、ベルトの巻き取りのみ可能です。
- とくに、お子さまのいたずらなどに気をつけてください。
- リクライニング式シートの場合は、背当ては正しく装着できる位置で使用してください。

●チャイルドシート固定機構の使いかた

詳しい取り付け、取り外し方法については、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

- ①チャイルドシート（別売／スバル純正 ISO-FIX方式を除く）を取り付けます。
- ②チャイルドシートが取り付けにくい場合には、リヤシートのピローを取り外します。
- ③シートベルトを引き出し、チャイルドシートにシートベルトを通して、タンクをバックルに確実に差し込みます。
- ④肩ベルトをゆっくりと全部引き出します。
（自動的にチャイルドシート固定機構が作動します。）
- ⑤チャイルドシートに体重をかけ、座席に充分しずみ込ませた状態で、腰ベルトのたるみがなくなるまで肩ベルトを巻き取らせ、チャイルドシートを確実に固定させます。
- ⑥チャイルドシートをゆさぶり、固定されていることを確認します。

●チャイルドシート固定機構の解除のしかた

- ①バックルの“PRESS” ボタンを押して、シートベルトを外します。
- ②シートベルトを全部巻き取らせると、チャイルドシート固定機構が解除します。

ISO-FIX固定バー および テザーアンカー

後席には、乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）のスパル純正 ISO-FIX チャイルドシートを固定するための専用の ISO-FIX 固定バーの装着が可能です。詳しい取り付け方法は、スパル販売店にお問い合わせください。

また、ISO-FIXテザー式の幼児用（チャイルド）として、前向きで使用する場合にのみ使用するテザーアンカーが装備されています。

- ISO-FIX方式において、この車両で認可を取得した乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）のスパル純正ISO-FIXチャイルドシートは、専用のISO-FIX固定バーを使用して確実に、また、容易に固定することができます。
- ISO-FIXテザー式の幼児用（チャイルド）として前向きで使用する場合には、テザーアンカーを使用してチャイルドシートの上側を確実に固定することができます。

警告

- 前向きに取り付ける場合には、必ず ISO-FIX 固定バーとテザーアンカーをセットで使用してください。セットで使用しない場合は、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ISO-FIX チャイルドシートを取り付ける際は、固定専用のアンカー部およびベースシートのロック部にシートベルトや異物の噛み込みがないことを確認してください。
シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けた時に重大な傷害につながるおそれがあります。

- 前向きに取り付ける場合は、テザーベルトは必ずリヤシート背当て後ろ側中央部にあるテザーアンカーに固定してください。

ISO-FIX 固定バーには絶対に固定しないでください。

- ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）を後ろ向きに取り付ける場合には、テザーベルトを使用しないでください。

（詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。）

■ ISO-FIX固定バー

詳しくはスパル販売店にお問い合わせください。

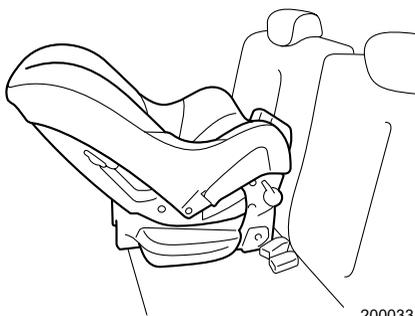
■ テザーアンカー（前向き取り付け時のみに使用）

リヤシート背当て後ろ側中央部にテザーアンカーがあります。取り付けをされる場合は、スパル販売店でリヤシートの加工が必要となります。詳しくはスパル純正ベースシートセットの取扱説明書をご覧ください。

●スバル純正 ISO-FIX チャイルドシート（テザー式）を後ろ向き（乳児用）として使用する場合の取り付けかた

詳しい取り付け、取り外し方法については、別売のスバル純正ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）に付属の取扱説明書をご覧ください。

- ① 背当てとシートクッションのすき間を少し広げ、ISO-FIX固定バーの位置を確認します。
- ② ベースシートを ISO-FIX 固定バーに確実に取り付けます。
- ③ ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）をベースシートに確実に取り付けます。
- ④ ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）を軽くゆさぶり、ISO-FIX固定バーに確実に固定されていることを確認します。



⚠ 注意

チャイルドシートを取り付ける際に、手を挟まないよう、気をつけてください。

⚠ 警告

- ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）を後ろ向きに取り付ける場合には、テザーベルトを使用しないでください。
- ISO-FIX チャイルドシートを取り付ける際は、固定専用のアンカー部およびベースシートのロック部にシートベルトや異物の噛み込みがないことを確認してください。
シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けた時に重大な傷害につながるおそれがあります。

🏠 アドバイス

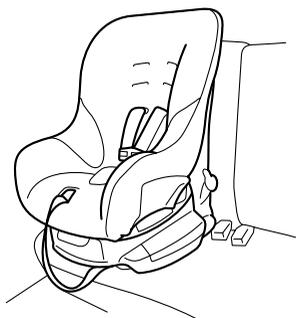
背当ては、正しく装着できる位置で使用してください。

●スバル純正 ISO-FIX チャイルドシート（テザー式）を前向き（幼児用）として使用する場合の取り付けかた

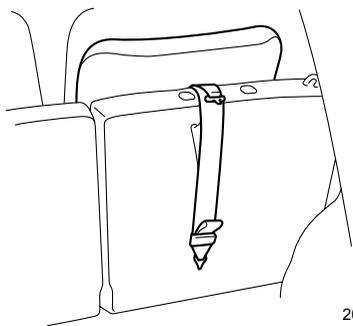
詳しい取り付け、取り外し方法については、別売のスバル純正ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）に付属の取扱説明書をご覧ください。

- ① ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）を取り付ける側のリヤシートのピローを取り外します。（ピロー付車のみ）
- ② 背当てとシートクッションのすき間を少し広げ、ISO-FIX固定バーの位置を確認します。
- ③ ベースシートを ISO-FIX 固定バーに確実に取り付けます。
- ④ ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）をベースシートに確実に取り付けます。

- ⑤ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）を軽くゆさぶり、ISO-FIX固定バーに確実に固定されていることを確認します。
- ⑥ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトをテザーアンカーに確実に引っかけます。
- ⑦ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトがピンと張る（5 kg程度）まで強く引っ張って、チャイルドシートの上側を確実に固定します。
- ⑧ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトを軽く引っ張り、テザーアンカーに確実に固定されていることを確認します。



200031



200032

⚠ 注意

チャイルドシートを取り付ける際に、手を挟まないよう、気をつけてください。

⚠ 警告

- 前向きに取り付ける場合は、必ずISO-FIX 固定バーとテザーアンカーをセットで使用してください。セットで使用しない場合には、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

（詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。）

- ISO-FIX チャイルドシートを取り付ける際は、固定専用のアンカー部およびベースシートのロック部にシートベルトや異物の噛み込みがないことを確認してください。
シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けた時に重大な傷害につながるおそれがあります。

🏠 アドバイス

背当ては、正しく装着できる位置で使用してください。

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。

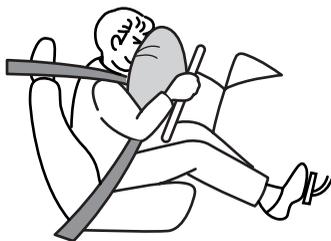
全てのSRSエアバッグはエンジンスイッチがONのときのみ作動可能になります。

運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。

SRS サイドエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部への衝撃をやわらげる装置です。

運転席SRSエアバッグ

ハンドル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしぼみます。



200123

助手席SRSエアバッグ

助手席インストルメントパネル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしぼみます。

助手席に同乗者がいなくても運転席SRSエアバッグと同時に作動します。

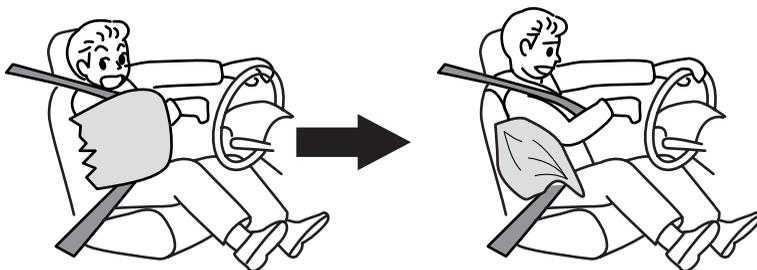


200124

SRSサイドエアバッグ ☘

運転席、助手席各シートに格納された SRS サイドエアバッグが瞬時に膨らんだ後にしぼみます。膨らむのは衝撃を受けた側のみです。

SRSサイドエアバッグは、乗員がいなくても作動します。



200043

■シートベルトは必ず正しく着用してください

警告

- SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRS エアバッグシステムだけでは身体の飛びだしなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を受けてしまいます。
- シートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとらないと、衝突などのとき、SRS エアバッグシステムの効果が充分発揮されず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2-34ページ参照

- 正しい乗車姿勢になるようシート位置、ハンドル位置を調整してください。不適切な乗車姿勢ではSRS エアバッグシステムの効果を発揮させることができず命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2-25ページ参照

■乗員とSRSエアバッグの間に物を置かないでください

警告

膝の上に物をかかえるなど乗員とSRSエアバッグの間に物を置いた状態で走行しないでください。SRSエアバッグが膨らんだときに物が飛ばされたり、SRSエアバッグの正常な作動を妨げたりして、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

■運転席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

警告

- ハンドルを交換したり、センターパッド部にステッカーなどを貼らないでください。SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。
- ハンドルのSRSエアバッグ格納部に手を置いたり、パッド部を強打したり衝撃を加えたりしないでください。また、顔や胸などを近づけないでください。SRSエアバッグが作動したとき、衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



運転する前に

■助手席 SRS エアバッグに関して は、次の事項をお守りください

警告

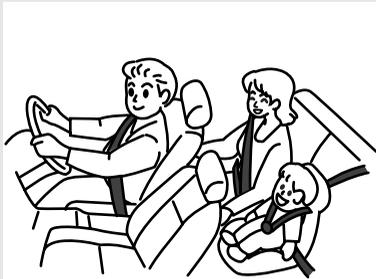
- インストルメントパネルの SRS エアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸を近づけたり、もたれかからないでください。SRSエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- お子さまは後席に座らせて必ずシートベルトを着用させてください。



200366

- 6歳未満のお子さまはスバル純正チャイルドシートをご使用ください。6歳以上のお子さまでもシートベルトを正しく着用できないお子さまは、スバル純正チャイルドシート（別売）を使用してください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。チャイルドシートをお使いになるときは、必ず後席に取り付けてください。

なお、スバル純正チャイルドシートの使用方法は添付されている取扱説明書をご覧ください。



200127

- インストルメントパネルの上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリや芳香剤などを置かないでください。また、フロントガラスにアクセサリなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けしないでください。SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらの物が飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



200515

- インstrumentパネル上面近くにテレビやナビゲーションシステムを取り付ける場合、スバル販売店にご相談ください。助手席SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

■ SRS サイドエアバッグ付車に関しては、次の事項をお守りください

警告

- フロントシート背当てのSRSサイドエアバッグ格納部に手、足、顔を近づけたり、ドアにもたれかかるような姿勢で座らないでください。SRSサイドエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



200368

- お子さまなどに後席からフロントシートの背当てを抱えこむような姿勢はさせないでください。SRSサイドエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



200369

- フロントシート背当てのSRSサイドエアバッグ格納部を強打したり、衝撃を加えないでください。正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- スバル純正のSRSサイドエアバッグ専用シートカバー以外は使用しないでください。ご使用の際は付属の取扱説明書をよくお読みください。正しい向き、位置に装着しないとSRSサイドエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。

次ページへ ▶

運転する前に

▶前ページより

- SRS サイドエアバッグが格納されている付近に物を置いたり、周辺にカップホルダーなどのアクセサリ用品を取り付けしないでください。SRS サイドエアバッグが作動したときこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



200370

■お子さまを乗せるときには、次の事項をお守りください

⚠ 警告

- お子さまは後席に座らせて必ずシートベルトを着用させてください。後席がお子さまにとって最も安全な乗車位置です。
- お子さまをSRSエアバッグの前に立たせたり、膝の上に抱いたり、背負ったりした状態では走行しないでください。



200366



100234

- 法律により6歳未満のお子さまを対象にチャイルドシートの使用が義務づけられています。6歳未満のお子さまはチャイルドシートをご使用ください。6歳以上のお子さまでもシートベルトを正しく着用できないお子さまは、スバル純正チャイルドシート（別売）を使用してください。スバルチャイルドシートの使用方法は添付されている取扱説明書をご覧ください。

- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。

SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。チャイルドシートをお使いになるときは、必ず後席に取り付けてください。



200127

SRSエアバッグが作動すると

警告

- 運転席、助手席 SRS エアバッグが展開すると、ガス排出穴からガスが抜けて直ちにしぼみ始めます。
排出穴からのガスに直接触れた場合に、やけどをすることがあります。
- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグの構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっていますので、触れるとやけどをするおそれがあります。

アドバイス

- 運転席、助手席 SRS エアバッグは膨らんだ後、直ちにしぼんで視界を妨げません。
- SRS エアバッグは一度だけ膨らみ、一度作動すると、2回目以降の衝突では再作動しません。
- SRS エアバッグは効果を発揮するために非常に速く膨らみます。このため、展開中のエアバッグと接触して打撲やすり傷、やけどなどを受けることがあります。
- SRS エアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。
ただし、残留物（カスなど）が目などに付着した場合は、できるだけ早く水で洗い流してください。皮ふの弱い方は、まれに皮ふを刺激する場合があります。
- SRS エアバッグは一度膨らむと再使用はできません。スバル販売店で交換してください。

車両の整備作業やカー用品を装着するときは、次の事項をお守りください

警告

- 車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。
これらの作業が必要なときは必ずスバル販売店にご相談ください。
- サスペンションを改造したり、指定サイズ以外のタイヤへの交換はしないでください。
車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- 車両前部にスバル純正品以外の部品などは装着しないでください。車両前部を改造するとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドル廻りやインストルメントパネル、センターコンソール付近の修理、オーディオシステムの交換をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
- 車体前面（車体側面）の板金塗装および修理をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。

- SRSサイドエアバッグ付車は、フロントシートの表皮の張り替えやシートの取り外し・取り付け・分解・修理などをしないでください。
シートに内蔵されているSRSサイドエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- SRSサイドエアバッグ装着車では、センターピラーのセンサー格納部を分解、修理しないでください。
衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
分解、修理はスバル販売店で行ってください。
- SRSエアバッグが格納されているパッド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せずスバル販売店で交換してください。
衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
- 無線機などを取り付けるときはスバル販売店にご相談ください。
無線機の電波などはSRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあります。
- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。
SRSエアバッグが思いがけなく作動して重大な傷害につながるおそれがあります。

運転する前に

運転席、助手席SRSエアバッグが作動するとき、しないとき

運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。

車体の衝撃吸収構造により、衝突時のエネルギーは車体がつぶれることで、吸収または分散され、車体の損傷が大きくても乗員への衝撃は大きくならない場合もあります。

したがって、車体の損傷が大きくてもSRSエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

<作動するとき>

■次のようなときに作動します

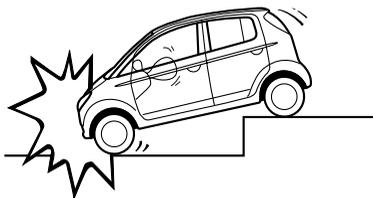
- 20～30 km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき、また、これと同等以上の衝撃を受けたとき



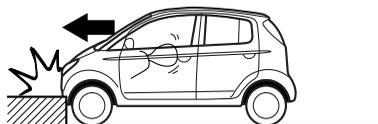
200945

●走行中路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります

- 深い穴や溝に落ちたり、ジャンプして地面にボディ下面を強くぶつけたとき
- 縁石に衝突したときや、道路上の突起にボディ下面を強くぶつけたとき



200946

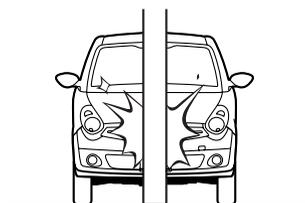


200947

<作動しにくいとき>

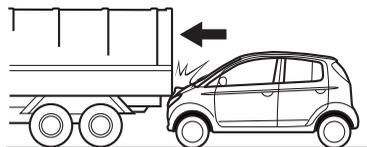
■ 次のように、部分的に衝撃を受けたときや車両前方から衝撃が加わらなかったとき

- 電柱などに衝突したとき



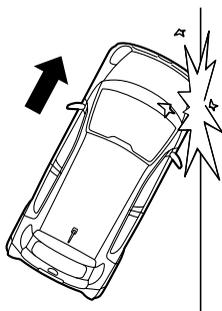
200948

- トラックの荷台にもぐり込んだとき



200949

- 斜め前方への衝突のとき



200100

運
転
す
る
前
に

次ページへ ▶

▶前ページより

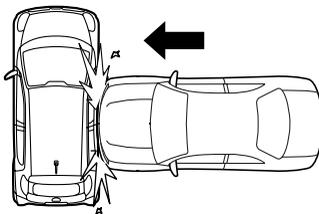
●また、次のような場合はSRSエアバッグがまれに作動することもあります
が、本来の効果は発揮されません

● 後ろから衝突されたとき



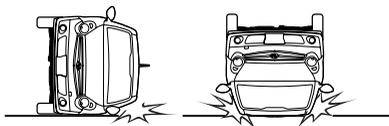
200950

● 横方向から衝突されたとき



200102

● 横転や転覆したとき

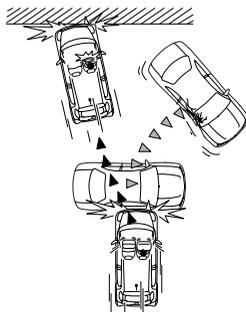


200951

<作動しないとき>

■次のようなときは作動しません

● 一度SRSエアバッグが作動した後の衝突



200104

SRSサイドエアバッグが作動するとき、しないとき

SRSサイドエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部への衝撃をやわらげる装置です。

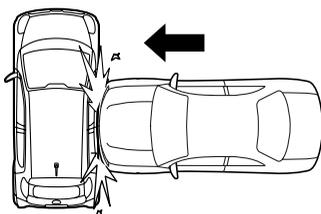
SRSサイドエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。

SRSサイドエアバッグの作動・非作動は、衝撃の大きさや衝撃を受けた部位、衝突方向などの条件により変わります。

<作動するとき>

■次のようなとき衝撃が大きいと作動します

- 側面に真横から衝突されたとき



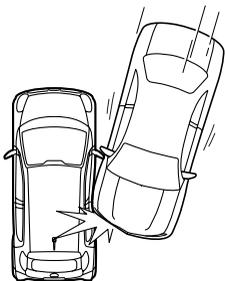
200105

運転する前に

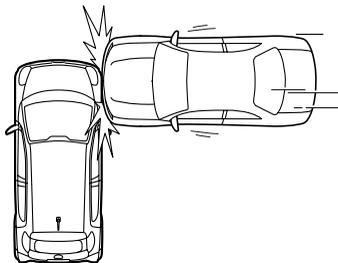
<作動しにくいとき>

■次のようなとき、衝撃の大きさによっては作動しないこともあります

- 衝突した物が変形したり移動した場合、また、衝突した物の形状や衝突の状態によっては、衝突時の衝撃が弱められるためSRSサイドエアバッグは作動しにくくなります。
- 車両側面に斜めから衝突されたとき
- 客室以外に側面から衝突されたとき

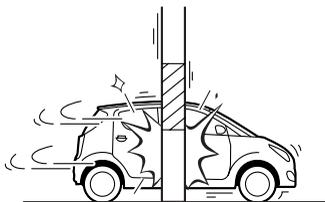


200106



200107

- 電柱などに衝突したとき



200794

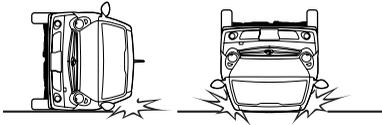
- 側面にバイクが真横から衝突したとき



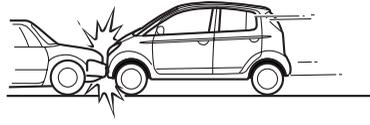
200952

■また、次のような場合はSRSサイドエアバッグがまれに作動することがありますが、本来の効果は発揮されません

- 横転や転覆したとき
- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき

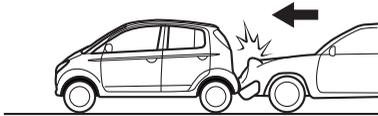


200951



200953

- 後ろから衝突されたとき

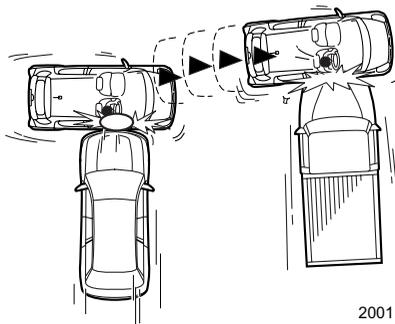


200954

<作動しないとき>

■次のようなときは作動しません

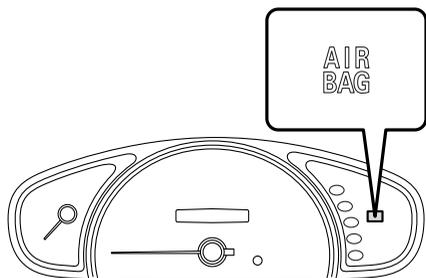
- 一度SRSサイドエアバッグが作動した後の衝突



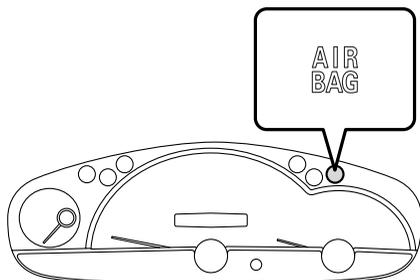
200113

SRSエアバッグ警告灯

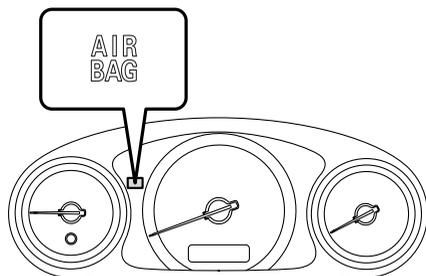
警告灯は、メーターに組み込まれており、運転席、助手席、サイドの各SRSエアバッグおよびシートベルトプリテンショナーと兼用になっています。エンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯します。



200171



200172



200537

警告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをすおそれがあります。

直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- 走行中に点灯したとき

注意

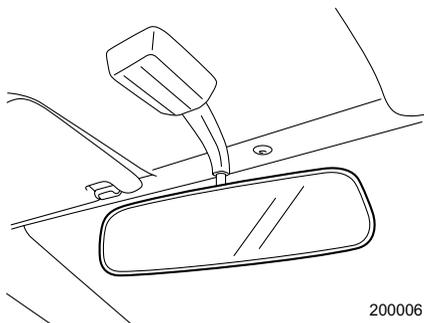
上記のように警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

ミラーの調整

ルームミラー

■ルームミラー

ミラー本体を動かして後方が充分確認できるように調整します。



200006

⚠ 注意

調整は必ず走行前に行ってください。

ドアミラー

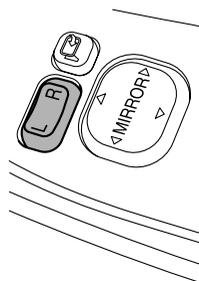
■電動リモコンドアミラー

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、ミラーの調整ができます。

①調整するミラーを選びます。

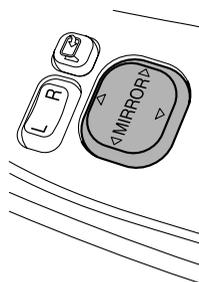
左右切り替えスイッチを押して選びます。

「L」：左側ミラー、「R」：右側ミラー



200003

②「調整スイッチ」を上下左右に動かして後方視界が充分確認できる位置に調整します。

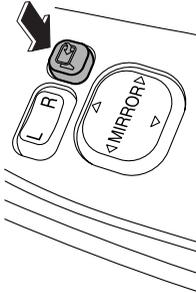


200002

運転する前に

■電動格納式ドアミラー

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、左右のミラーを同時に格納できます。スイッチを押しこむと格納します。もう一度押すと元に戻ります。



200001

🏠 アドバイス

- 寒いときには、作動の途中で止まる場合があります。もう一度スイッチを押してください。スイッチの操作で動かないときには、ドアミラーを手で数回動かすと作動するようになります。
- 格納スイッチを連続して「格納⇄元に戻す」を行うと作動しなくなることがあります。これは異常ではありませんので、しばらく待ってから作動させてください。
- 格納状態から手で元に戻すとドアミラーがグラグラすることがあります。必ず電動で元に戻してください。なお、ドアミラーがグラグラするときは、もう一度格納状態にしてから電動で元に戻してください。

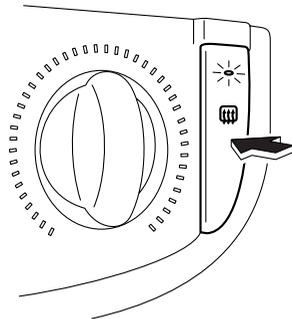
■ヒータードアミラー

エンジンスイッチがONのとき使用できません。スイッチはエアコンの操作パネルの右横にあります。

ドアミラーについた霜や曇りを取るときに使います。リヤウインドウデフォグーに連動して作動します。

- スイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯します。スイッチを押してから約15分で自動的にOFFになります。
- 作動中、途中で止めるときはスイッチをもう一度押します。

☆3-13ページ参照



300908

🏠 アドバイス

消費電力が大きいので長時間の使用、または雪などを溶かすような使いかたは避けてください。